

胃がんの予防のお話

皆さまは、年に一度は健康診断やがん検診を受けていますか。以前よりがんは治る患者さまが増えていますが、進行した状態ですと治療が間に合わない場合もあります。逆に早期発見できれば、ほとんどの患者さまはがんであっても、治療できます。

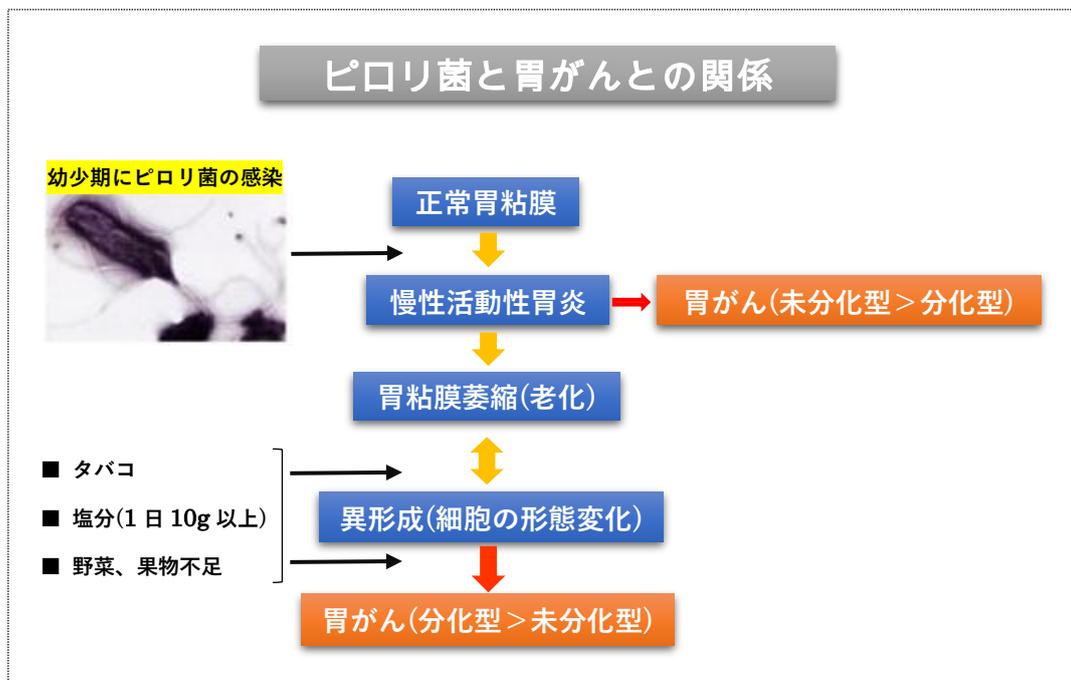
平成 29 年 8 月の市民公開講演でもお話させていただきましたが、胃がんについて最近、新しい事実が分かってきました。胃がんの原因の 99%が胃に感染しているヘリコバクターピロリ菌という細菌が原因になっていることです。このピロリ菌に感染していないと、胃がんになることはまれです。ピロリ菌に感染しないようにすること、もし感染している状態で慢性胃炎が認められれば除菌といってピロリ菌を胃から駆除すれば胃がんになることを予防できると考えられています。

□ 疑問1 ピロリ菌はどこから胃に住み着くのでしょうか。

以前は井戸水などから感染するとされていました。もし成人で感染しても胃の中で死滅してしまいますので、幼児期に家族内で感染すると考えられています。つまり親から子供へ、祖父母から孫などに唾液を介して幼児期に感染するようです。ご結婚された際にご夫婦ともピロリ菌の感染を検査していただき、感染していれば除菌をすると子供さんがピロリ菌に感染することを防げます。

□ 疑問2 ピロリ菌に感染していると診断されたら治療は？

胃薬と抗生物質 2 剤を 7 日間内服するピロリ菌の除菌療法を受けていただきます。必ず胃カメラで胃がんが出来ていないかを検査する必要がありますが、もし慢性胃炎（ピロリ菌が影響する胃炎）が認められれば保険でピロリ菌の除菌治療が受けられます。通常 1 回目の除菌で 70-80%が除菌でき、1 回目が失敗しても 2 回目の除菌をすることで 90%近い患者さまが除菌できます。



この 2 点が実行されると近い将来には胃がんにかかる患者さまは、ほとんどいなくなる見込みがあります。胃がん撲滅プロジェクトとっていいかもしれません。

ピロリ菌の除菌薬には副作用がでる可能性もあります。治療はかかりつけの先生などに相談していただくことをお勧めします。また最近、胃がん検診はバリウムを飲む検診は次第に行われなくなっております。現在は最初から胃カメラを行う検診やリスク型検診（ABC 検診、採血で胃カメラが必要か判断）が始まっています。健康診断同様に胃がんの検診も是非受けていただき予防できるがんである、胃がんにならないようにしましょう。

【内科診療部長 飯田 智広】

